

 評価のポイントCL-4. リーダーシップとマネジメント能力
[78-4] 多職種チームとチームビルディング

以下の事例に対するチームビルディングのポイントを、チームビルディングの4つの要素とチームビルディングを行う際のポイント、多職種チームに必要なチームビルディングの要素、多職種チームに必要なチームビルディングのステップを参考に、看護師が調整役割を担う場合のチームビルディングについて考えてみましょう。

<事例>

あなたが所属する医療施設において、多職種による実践的な連携のあり方を検討するプロジェクト委員会が6か月間を目途に新たに発足しました。そこで、その委員会には、あなたが看護の実践者代表に選出されたとともに、会の調整役も命じられました。尚、委員会のメンバーはあなた以外は決まっておらず、調整者であるあなたが、必要な人的リソースも選出しなければなりません。

あなたは、直属の上司や他のリソース（信頼できる医師や他の職種の人々）にも相談しながら、新しいプロジェクトチームのチームビルディングのデザインをすることにしました。個人、またはグループでどのようなチームビルディングを形成すべきかを考えてみましょう。

組織横断的に活動する看護職においては、実践力の高さは勿論のこと、職種を超えたプロジェクトチームのコアメンバー、または調整役としても活躍することが期待される。

今回は多職種が参画する新たなプロジェクトチームの誕生に関するチームビルディングが課題である。

チームビルディングのポイントをチームビルディングの4つの要素とチームビルディングを行う際のポイント、多職種チームに必要なチームビルディングの要素、多職種チームに必要なチームビルディングのステップを参考にデザインをすることが期待されている。

活動の枠組みは全員参加して決めるのか、それともドラフトを作成しておくべきか。構成メンバーは、部門間のバランスが大切か、より多くのメンバーが必要か（発散的）、または、少数精鋭的か（収束的）などを考えることが期待される。場と環境はどのような形式が望ましいか、関係性においては、主体的、かつ対等に発言できる環境の設定やチーム形成に必要な、例えばブレインストーミングなどによる協働体験を用いることも期待される。